

修了生アンケート集計

2021年5月4日発送 5名(2020年3月修了生)

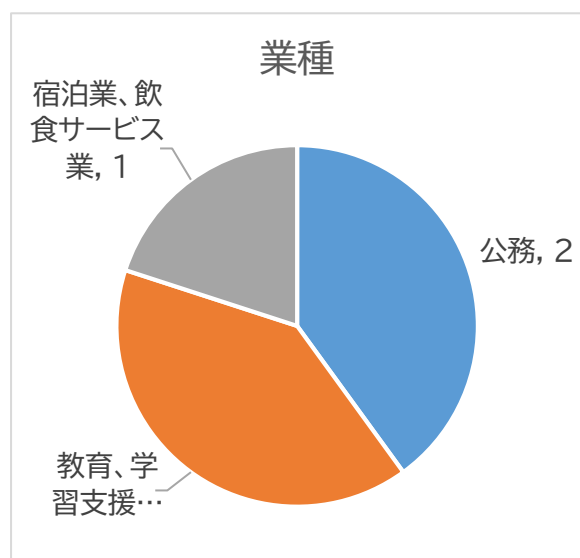
2021年6月18日締切

(人数)

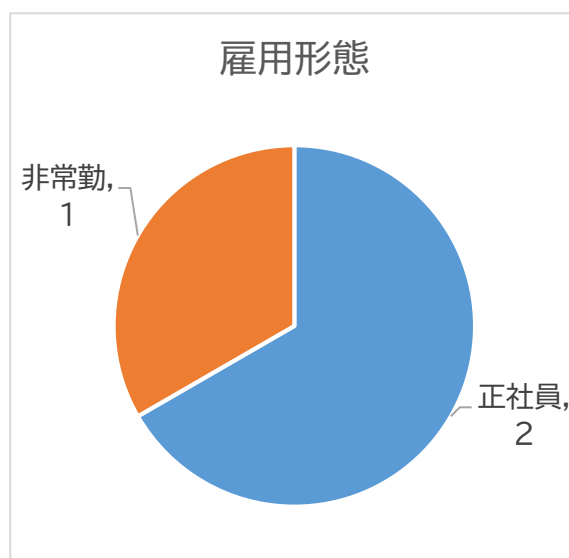
	発送数	宛先不明	回答数	男性	女性	回答率
専攻	5	0	5	0	5	100.0%
計	5	0	5	0	5	100.0%

有効配達 5先に対し回答件数 5件 回答率 100.0%(2020年度%)

Q2-① 勤務先、進学先



Q2-② 雇用形態(2名無記名)

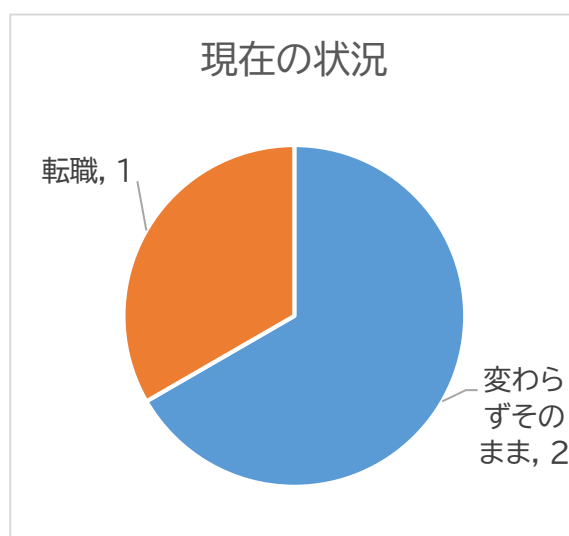


Q2-③ 退職、転職等

- ①2名:退職していない(20.0%)
 - ②1名:退職して転職している(20.0%)
 - ③2名:不明 (40.0%)
- 合計 5名

*退職した理由

仕事内容(管理職となり、多忙となったため)

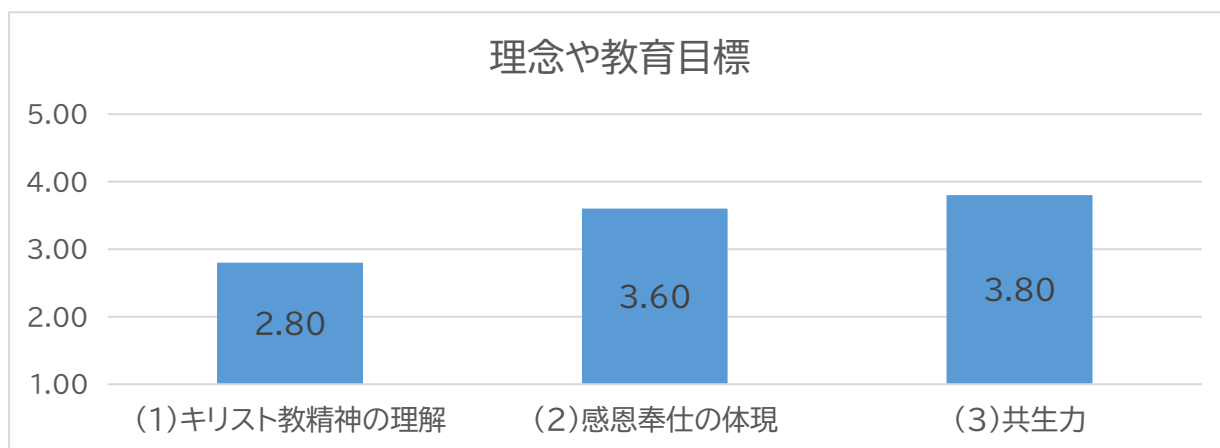


Q3 在籍時の学習成果がどのくらい身につけているか

- 5 身に付いている 4 概ね身に付いている 3 少しは身に付いている
2 あまり身に付いていない 1 身に付いていない

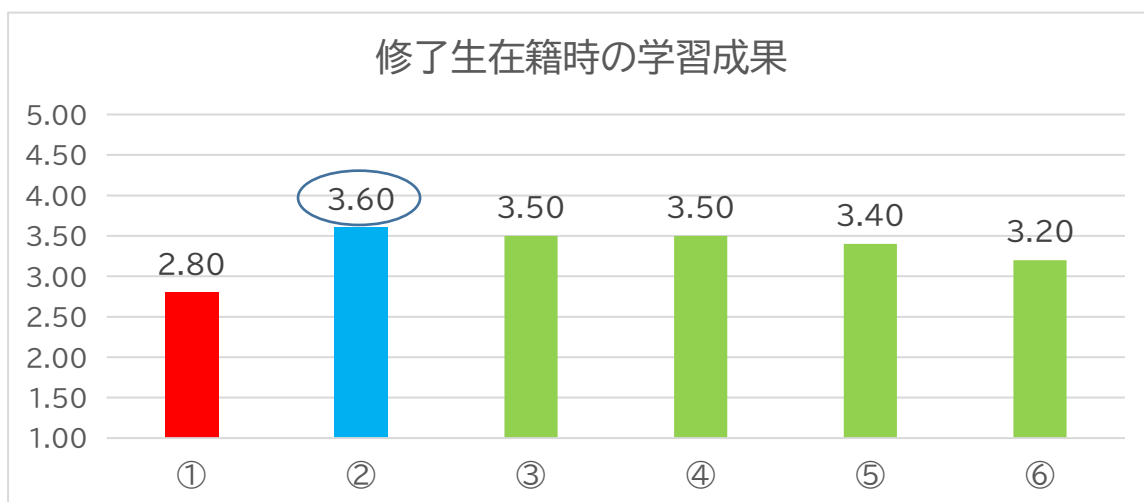
(1) 本学の理念や教育目標について

	項目	内容
(1)	キリスト教精神の理解	キリスト教精神やそれに基づく感恩奉仕の精神を理解している
(2)	感恩奉仕の体現	ボランティア精神と倫理観を持ち、社会で自分の役割を果たしている
(3)	共生力	社会の動向に関心を持ち、また異なる文化や他者を理解し、その社会・文化の中で他者とともに協同することができる

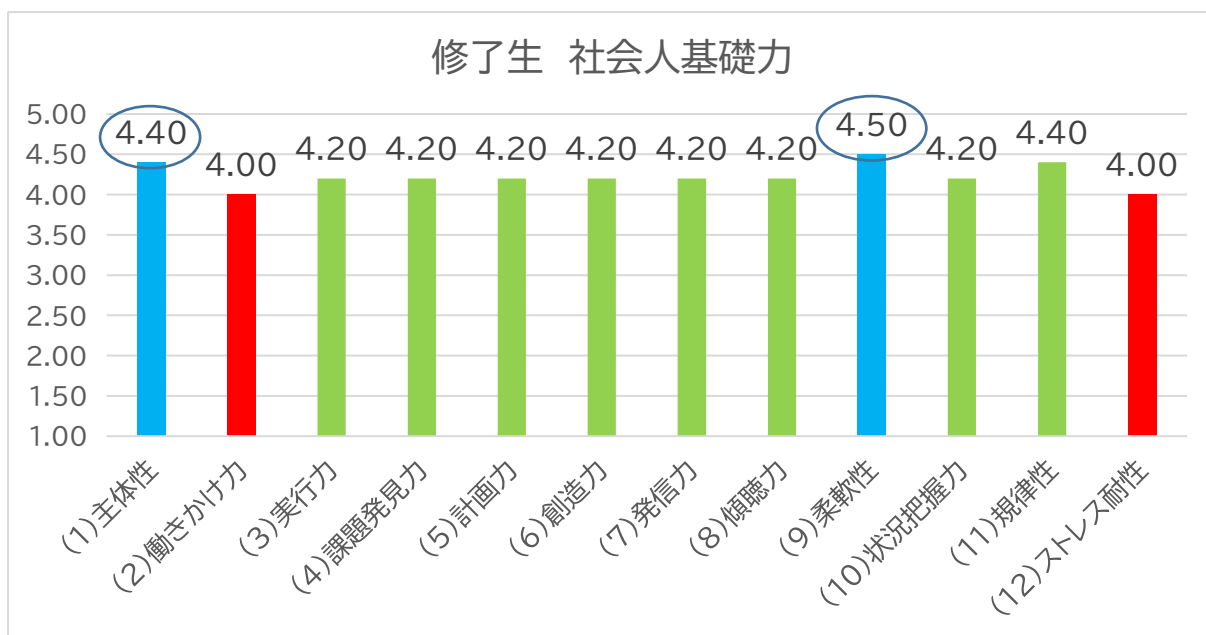


(2) 学習成果について

①	発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力
②	発達障害のある(あるいは疑いのある)幼児・児童・生徒の特別支援教育ができる能力
③	発達障害のある生徒の移行支援・就労支援ができる能力
④	学校現場で起きる不登校、いじめ、非行や神経症などの様々な問題に適切に対応するとともに、こうした問題の予防教育ができる能力
⑤	医療や福祉などの現場において、様々な情緒的問題を抱える人たちへの心理的支援ができる能力
⑥	学校をはじめとする障害者を包含する社会において、意識調査や啓発活動等ができる能力

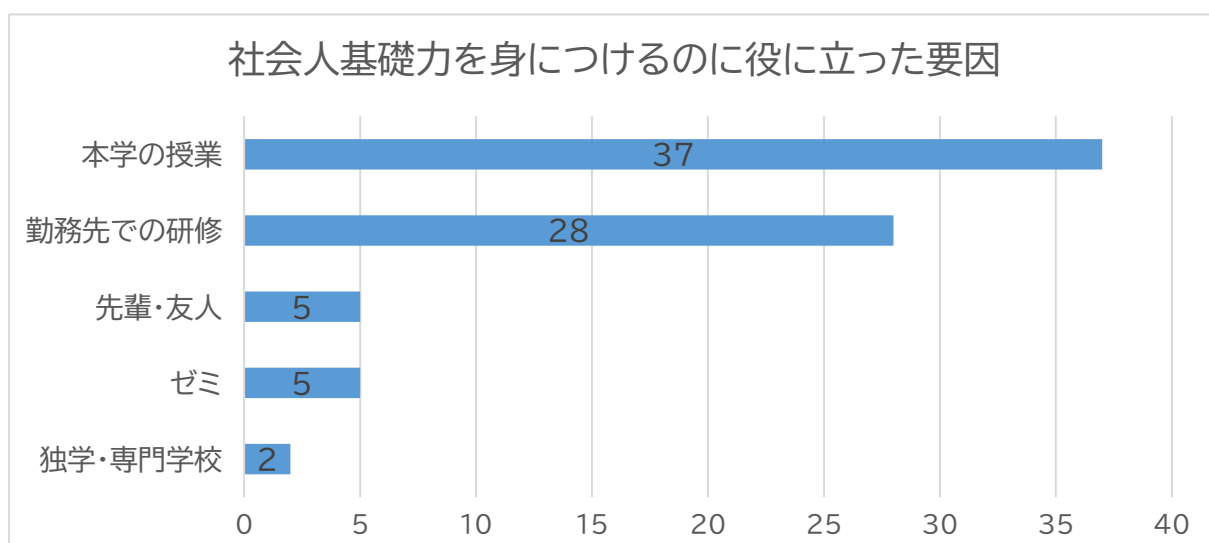


Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか



Q4-2 社会人基礎力を身に付けるのに何が役に立ったのか

- 1 本学の授業 2 ゼミ 3 インターンシップ 4 留学・異文化 5 ボランティア活動
 6 サークル活動 7 アルバイト 8 先輩・友人 9 自治会 10 独学・専門学校
 11 学内外のイベント 12 勤務先での研修 13 その他



Q4-3 実社会で必要と思われる社会人基礎力を書いてください

順位	項目
1	傾聴力
2	柔軟性
3	主体性

Q4-4 社会人基礎力以外で、大学時代に身に付けておけば良かったことや、在学生在に身に付けて欲しい能力や資質をあげてください

- ・仕事をする上で技術や知識も必要ですが、雑談力や人に助けを求める力も大切だと感じます。
大学院時代に身につけておきたかったものとして、実践である程度使えるくらい心理検査が(WISC だけでも)できるようになっていると助かると思います。
- ・論文をもっとたくさん読んでおけばよかったと思う。現場でよく使う検査をもっと勉強しておけばよかったと思う。
- ・社会人として大学院で学ばせてもらい、学ぶことはもちろんのことですが、生き方、物事の捉え方、対人関係等も多面的に考えさせられる場でもありました。

Q5 仕事をする上での悩み、課題やそれを誰に相談していますか

- ・変化していく医学や治療法などの最新の情報を得ながら、現場での対人対応を行っていく事。
職場内で相談検討しながら進めている。
- ・同僚
- ・同僚、上司

Q6 大学院時代に有意義だったと思う授業はありましたか

- ・他大学の講師の先生の授業
- ・発達心理学:当たり前の人間の行動を改めて考え直す機会となった。
認知行動療法:今の感情を、俯瞰して捉え、次の行動を考えることにつながっている。
- ・教育心理学
- ・発達心理学:当たり前現状を心理学的な側面から再確認した

Q7 今後新たにどのような教育が必要になってきますか

- ・継続して学べる機会があると、情勢の変化に応じた学びを得ることにつながると思います。
- ・生涯教育への学びの場を提供してほしい。

Q8 本学全般にわたってのご意見はありませんか

- ・丁寧に対応していただき感謝しています。
- ・何もわからず入学をして、学ぶ機会をいただきとても有意義な2年間でした。社会人になって、現場を見て疑問に思うことを再度学ぶことができました。

※修了生アンケートの所感

1 回答率

回答率100%というのは特記すべき結果と考えられる。この種の調査で100%になることは普通はないためである。

2 Q3 在籍時の学修成果がどのくらい身につくについて活かされているか

(1) 本学の理念や教育目標

キリスト教精神の理解については、やや理解が低く、今後、この点の検討が必要と考えられる。

(2) 大学院の学修成果について

大学院のディプロマポリシー各項目はいずれも3点台であり、一応大学院での学習が身につけているという修了生の評価であった。

前回同様、「発達障害のリスクのある乳幼児の心理査定、就学前までの支援ができる能力」については2.8点(1~5点)と他の領域に比較してやや評価が低めであった。知能検査等の心理査定の講義はあるのだが、やや現行の教育内容と院生側の期待との間に乖離があるようである。今後次年度からの公認心理師大学院では、心理査定能力の習得について十分検討する必要がある。

ただ、大学院のみで実務に必要な知識や技能をすべて身につけるのは、2年間のしかも夜間大学院という限られた時間の中では困難と考えられる。今後、公認心理師大学院を開設するに当たっては、院生の自由記述にあったように、卒後研修のシステムを作ることが必要と考えられる。

3 Q4-1 社会人基礎力を現在どの程度身に付けているか

いずれの項目も4点台(4 概ね身に付いている)で問題ないと考えられた。また、その多くは勤務先での研修を凌駕して本学の教育によって身についたという評価であった。本学の教育が社会人基礎力の向上に寄与していると考えられる。ただ、働きかけ力、実行力、課題発見力については、本学よりも勤務先での研修が寄与するという結果であり、今後、本学大学院で働きかけ力、実行力、課題発見力についても育成をはかることを考えても良いかもしれない。